

急性循環不全改善剤

日本薬局方 ドパミン塩酸塩注射液

※※ドパミン塩酸塩点滴静注100mg「ツルハラ」※※

Dopamine Hydrochloride Injections 100mg 「TSURUHARA」 ※※

承認番号	30100AMX 00404000
薬価収載	2020年6月
販売開始	1987年10月

規制区分
劇薬、 処方箋医薬品（注意—医師等の 処方箋により使用すること）

貯法	室温保存
使用期限	外箱、アンプルに表示

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

褐色細胞腫〔カテコールアミンを過剰に産生する腫瘍であるため、症状が悪化するおそれがある。〕

※【組成・性状】

組成

ドパミン塩酸塩点滴静注 100mg「ツルハラ」は1管(5mL)中ドパミン塩酸塩 100mg および添加物としてピロ亜硫酸ナトリウム 5.0mg を含有する。

製剤の性状

ドパミン塩酸塩点滴静注 100mg「ツルハラ」は無色澄明な注射液で、そのpHは3.0～5.0、浸透圧比は0.6～0.8(生理食塩液の浸透圧を1とする)である。
本剤はpHによってその安定性が左右され、pH8.0以上で着色する。

【効能・効果】

急性循環不全(心原性ショック、出血性ショック)
下記のような急性循環不全状態に使用する。

1. 無尿、乏尿や利尿剤で利尿が得られない場合
2. 脈拍数の増加した状態
3. 他の強心・昇圧剤により副作用が認められたり、好ましい反応が得られない状態

【用法・用量】

通常ドパミン塩酸塩として1分間あたり1～5μg/kgを点滴静脈投与し、患者の病態に応じ20μg/kgまで増量することができる。

必要に応じて日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液、ブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等で希釈する。投与量は患者の血圧、脈拍数および尿量により適宜増減する。

【使用上の注意】

(1) 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 末梢血管障害のある患者(糖尿病、アルコール中毒、凍傷、動脈硬化症、レイノー症候群、バージャー病等)〔末梢血管収縮作用により症状が悪化するおそれがある。〕
- 2) 未治療の頻脈性不整脈又は心室細動の患者〔陽性変時作用により症状が悪化するおそれがある。〕

(2) 重要な基本的注意

- 1) それぞれのショック状態において必要に応じ最初に輸液、輸血、呼吸管理、ステロイド投与等の処置を考慮する。
- 2) 血圧、脈拍数及び尿量等、患者の状態を観察しながら投与する。
- 3) 大量投与したとき、脈拍数の増加がみられた場合や尿量の増加がみられない場合には本剤を減量するか中止する。

(3) 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノチアジン誘導体 プロクロルペラジン等 ブチロフェノン誘導体 ドロペリドール等	本剤の腎動脈血流増加等の作用が減弱することがある。	左記の薬剤はドパミン受容体遮断作用を有する。
モノアミン酸化酵素阻害剤	本剤の作用が増強かつ延長することがある。	本剤の代謝が阻害される。
ハロゲン化炭化水素系麻酔剤 ハロタン等	頻脈、心室細動等の不整脈を起こすおそれがある。	左記麻酔剤により、本剤の感受性が高まる。

(4) 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

1) 重大な副作用(頻度不明)

1. 麻痺性イレウスがあらわれることがある。
2. 末梢血管の収縮により四肢冷感等の末梢の虚血が起り、壊疽を生じることもあるので、四肢の色や温度を十分に観察し、変化があらわれた場合には投与を中止し、必要があればα-遮断剤を静脈内投与する。

2) その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻度不明
循環器	不整脈(心室性期外収縮、心房細動、心室性頻拍等)*、動悸、頻脈
消化器	嘔気、嘔吐、腹部膨満、腹痛
その他	静脈炎、注射部位の変性壊死、起毛

*：不整脈が発現した場合には、抗不整脈剤を投与するか本剤の投与を中止すること。

(5) 高齢者への投与

高齢者では、生理機能が低下していることが多く、副作用があらわれやすいので、少量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら、慎重に投与すること。

(6) 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。〕

(7) 過量投与

誤って過量投与した場合には、患者の状態が安定するまで投与速度を落とすか一時的に投与を中止する。必要な場合には α -遮断剤の投与等適切な処置を行う。

(8) 適用上の注意

1) 投与時

血管外へ漏れた場合、注射部位を中心に硬結、又は壊死を起こすことがあるので、できるだけ太い静脈を確保するなど慎重に投与すること。

2) 調製時

1. pH8.0 以上になると着色することがあるので、重曹のようなアルカリ性薬剤と混合しないこと。
2. 希釈溶液として日局生理食塩液、日局ブドウ糖注射液、総合アミノ酸注射液及びブドウ糖・乳酸ナトリウム・無機塩類剤等がある。

3) アンプルカット時

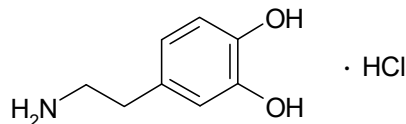
ワンポイントアンプルには小さな傷の位置を示すため丸印のマークをつけてあるので、アンプルカット直前にエタノールなどでよくふいたのち丸印マークを上にして両側にひっぱるように下に折り曲げ、カットする。

※※【薬効薬理】

ドパミンは、アドレナリン作動性神経ではノルアドレナリンの前駆物質であり、中枢神経系ではドパミン作動性神経の伝達物質である。アドレナリン受容体のうち、 β_1 受容体刺激作用と、高濃度で α 受容体刺激作用を示す。これらによる心臓促進作用と昇圧作用を利用して、臨床的にはショックの処置に用いられる¹⁾。

【有効成分に関する理化学的知見】

構造式：



一般名：ドパミン塩酸塩 (Dopamine Hydrochloride)

化学名：4-(2-Aminoethyl)benzene-1,2-diol

monohydrochloride

分子式： $C_8H_{11}NO_2 \cdot HCl$

分子量：189.64

pH：本品 1.0g を水 50mL に溶かした液の pH は 4.0～5.5 である。

性状：本品は白色の結晶又は結晶性の粉末である。

本品は水又はギ酸に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくい。

融点：約 248℃(分解)

※【取扱い上の注意】

安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、5年)の結果、ドパミン塩酸塩点滴静注 100mg「ツルハラ」は通常の市場流通下において5年間安定であることが確認された²⁾。

※【包装】

100mg/ 5mL(1管) 50管

【主要文献】

- ※※ 1) 第十七改正日本薬局方解説書(広川書店) C-8418(2016)
2) 鶴原製薬株式会社 社内資料

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。
鶴原製薬株式会社 医薬情報部
〒563-0036 大阪府池田市豊島北1丁目16番1号
TEL: 072-761-1456 (代表) FAX: 072-760-5252



製造販売元
鶴原製薬株式会社

大阪府池田市豊島北1丁目16番1号

(TT1-30 18-2004)
A004-S